

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795500174		
法人名	合同会社まきや		
事業所名	グループホームまきや		
所在地	沖縄県宮古島市平良字西原2251-147		
自己評価作成日	令和元年12月26日	評価結果市町村受理日	令和2年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4770600205-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和 2 年 1 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.ドクターゴン診療所、うむやすみやあす・ん診療所、下地診療所の訪問診療(月2回)と緊急時24時間対応、主治医との円滑な報告・連絡・相談、歯科医院との連携など、医療連携体制が整っている。</p> <p>2.入居者が自分らしく尊厳のある暮らしが送れるように、毎日朝礼を行いスタッフ全員がケアの意識を統一日々のケアに取り組んでいる。職員は、家庭的な雰囲気づくりを心がけ、明るく笑顔あふれるケアを行っている。</p> <p>3.敷地内は緑に囲まれており、いつでも草木に触れることができる環境である。</p> <p>4.誕生会や季節の行事などは、スタッフ手作りの飾り付けで明るい雰囲気でも季節を感じられる工夫を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の敷地内には、広々とした緑豊かな庭があり、季節の草花が咲き、天気の良い日は利用者の散歩コースとなっている。歩くのが困難な方はベンチでゆっくりと日向ぼっこを楽しめるスペースもある。居室も広々と明るく、入り口にはそれぞれの個性豊かなイラスト入りの表札がある。厨房専門のスタッフにより、毎日3食とおやつを手作りの料理で楽しんでいる。又事業所の中心部に厨房があり、食事準備中の香ばしい匂いが立ち込め、食欲をそそる効果もある。職員は管理者や主任にのびのびと意見を言える雰囲気であり、その意見を具体的に実現し、「有休消化」「手当」「昇給」等働きやすい場所となっている。利用者の健康管理には、各協力医による事業所への往診や24時間体制の緊急時対応など医療機関との連携がとれており、過去3名の看取りを行った事がある。利用者一人一人に担当のスタッフを配置し、きめ細やかなサービスをしている。事業所は島の一周道路に面しており、トライアスロンや百キロマラソン等のイベントの際は門の前で応援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、介護の理念を居間に掲示し、スタッフがいつでも確認できるように努めている。また、会議の内容に応じて理念を用いて話し合うなど、ケアの統一を図っている。	2015年に医療法人を母体として設立された事業所は、2019年3月に合同会社として引き継がれ、理念もそのまま大切に引き継がれている。4つの目標を玄関先と居間に掲げ、さらに6つに分けてもっと解りやすくしている。朝のミーティングに読み合わせをし、職員への周知を図っている。管理者は時折会議の中で理念について説明し、職員間の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や敬老会など行事への参加をできる限り行っている。 また、自治会長の養っている山羊牧場へ散歩に出かけるなど地域とのつながりがある。	毎年恒例の宮古南静園の夏祭りに全員参加している。近隣の自治会長所有の山羊牧場へ出かけ、エサやりをする方もいる。事業所の沿道はトライアスロンのバイクコースとなり、門の前で毎年応援している。しかし運営推進会議への地域代表の参加が少なく、避難訓練への参加もみられない。	運営推進会議と避難訓練への地域住民の参加を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター養成講座の実施や地域の小学校、中学校にサポーター養成講座の取り組みを伝え、認知症への理解を深める働きを行っている。 また、介護初任者研修修了者の職場見学の受け入れなども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員は、宮古島市役所職員、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員、自治会長、地域住民代表、その他関係者を招いて、2ヶ月に1回開催している。 毎回様々な意見交換が出来ており、サービス向上に大いに活かしている。	運営推進会議は定期的に年6回開催されている。現在地域住民代表の参加は少ないが、あらゆる工夫を凝らしている最中である。利用者、家族、行政、知見者等は毎回参加し活発な意見を出してもらっている。議事録は玄関先の棚に常に置いてあり、いつでも閲覧できる状態にある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は定期的に関係機関へ出向いたり、電話連絡などで、協力関係を築いている。 また、当事業所の運営推進会議だけでなく他事業所の運営推進会議にも参加しており、その市町村担当者との交流や連携も行えている。	市の担当者は運営推進会議へ毎回参加し、情報提供やアドバイス等をしている。又、管理者は他の同業者の運営推進会議にも参加しており、そこでも市の担当者との交流や連携がとれている。市担当者からの依頼で問題のある方の入所依頼を受け入れた事もある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を定め、職員全員に周知徹底を図っている。 日中は、入居者の自由な生活を尊重する為、玄関・出入口を開放している。利用者が外に出た場合は、声かけ・付き添いを行い安全面に配慮している。	「身体拘束をしない」事業所の方針を入所時に家族に説明し、そのリスクについても話している。身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会は3ヶ月に一回定期的に開催しており、記録もされている。身体的拘束をしない為の指針や認知症ケアのマニュアルもあり、内部研修も定期的に行い、職員全員で周知を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設置し、3月に1回委員会を行っている。「身体拘束廃止に関する指針の周知徹底」「身体拘束とは」「身体拘束及び虐待をしないために」など様々なテーマを設け、同委員会にて研修を行っている。	高齢者虐待防止マニュアルをもとに、定期的な職員研修を行っている。身体的虐待のみならず心理的虐待等についても管理者はその都度話し、職員への周知を図っている。職員の疲労やストレスにも管理者は気を配り穏やかに職員が利用者のケアに当たれるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の日常生活費の管理を利用して入居者がいる為、勉強会を行い職員全員で理解をするよう努めている。 また、権利擁護の支援員との関わりを密に行い、制度を有意義に活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、分かりやすい説明を心がけ、入居者・ご家族が十分に理解された上で契約を行っている。また、契約後でも分からない事があれば、その都度説明し理解をしていただけるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に入居者の暮らしぶりなど状態報告や相談等、常に利用者・ご家族の意見に耳を傾け、要望には柔軟に対応できるよう努めている。	家族の訪問時に利用者の状態を報告し、家族の意見や要望を聞いており、玄関には意見箱を設置している。家族の意見により、利用者の運動不足の為、庭での散歩を毎日行うようになった。利用者は「そばが食べたい」「天ぷらが食べたい」等食事に対する要望が多く、その都度厨房で対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、全職員参加のミーティングを行っている。日々の業務や申し送りの中で出たアイデアや気づきを話し合い、より良い運営ができるように努めている。	毎月一回全職員によるミーティングを行い、職員の意見を聞いている。又管理者は職員の勤務状況により随時声を掛けている。各種イベントの計画時には職員の自主性を尊重し、働く意欲の向上につなげている。又利用者を担当制にする事で、活発な意見や要望を運営に反映させている。利用者の日向ぼっこや似顔絵の掲示などは好評である。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場を目指し、常に職員と話し合い、勤務状況や努力をしっかりと見極め、職場環境・条件の整備に努めている。また、担当制度を導入することで、職員の意見や判断を尊重するよう心がけている。	定期的な健康診断を行い、職員の健康管理に努めている。研修や私用等による勤務調整や有給休暇の取り方など配慮している。又資格の取得により、仕事への理解が深まり、就業意欲も向上するので、管理者はその支援をしている。「昇給」「皆勤手当」「資格手当」等の待遇改善により、職員のやりがいを引き出している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修や勉強会、外部から講師を招いた勉強会などを行っている。介護職員にも可能な限り外部研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度に引き続き、管理者が宮古島市グループホーム連絡会の会長を務め、情報交換や勉強会を行っている。また、他事業所の運営推進会議に参加したり当事業所の運営推進会議に他事業所職員を招いて意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、不安な気持ちにさせない為にも、まずは何気ない日常会話から入り、安心していただけるよう心がけている。その中で、不安や要望を引き出し、より良いケアプラン作成に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談にて、性格や生活歴等の聞き取りを行い、不安や要望に耳を傾けている。また、不安や要望の訴えが無くても、それを上手く引き出せるような話し方を心がけ、安心していただけるよう努めている。さらに、ご家族が気軽に相談できるように管理者への連絡は日時や時間の設定を設けず、いつでも対応できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の面談にて得た情報に基づき、入居者とご家族の意見を聞き、必要としている支援を見極めるよう努めている。ニーズの確認後、必要であれば他のサービス利用を検討したケアプランを作成し、入居者・ご家族の同意を得た上でサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や洗濯・掃除などの日常生活を共に行い、互いに支えあう関係づくりに努めている。一人ひとりの能力に応じて様々な役割を検討し、皆で支えあう生活が行えるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず状況報告を行っている。また、面会時間の制限を設けず、いつでも面会できるような環境を作り、入居者とご家族の絆を大切にしよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に散歩やドライブを計画し、生まれ育った場所やなじみの場所へ出向いている。また、面会時間の制限を設けない等、知人・友人が訪問しやすい環境を作っている。	昔なじみの友人や親戚の方が面会に来たり、馴染みの美容師さんが定期的に来所してくれる。毎年初詣に出かける際、馴染みの場所を通るようにしている。毎年恒例のハーリーに出かけたとき、昔馴染みの方に会うこともある。19:00から翌日7:00までは防犯のため施錠しているが、馴染みの方からの連絡があれば対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレク、おやつ時間には職員と共に過ごし、利用者同士の関係づくりの支援を行っている。居室に孤立している場合は、本人の意志を尊重しながら、声かけを行い交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の相談援助だけでなく、退居後であっても、随時相談を受け入れ、対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や要望を自らの言葉で伝えることが困難な方に対しては、日常会話の中でふと発する言葉や仕草、表情の変化などを観察し、職員間で話し合いながら希望・要望の把握に努めている。また、言語障害がある方にはクローズドクエッション又は五十音表を用いて意志を把握できている。	自身の思いや意向を表現できない利用者には、日々のケアの中から時折みせる表情の変化や声のトーンの違いをくみ取り、家族や友人からの情報をもとにして、その理由を意識して支援にあたっている。又言語障害のある方には、「ハイ」「イエ」等の限定した答えのクローズドクエッションや五十音表を用いて意志の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、本人との会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方などを聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おおまかな一日の流れに沿いつつも、本人の状態や意向を確認しながら、状況把握に努め、本人の意志を尊重した寄り添う支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議にて、スタッフやケアマネージャーの意見やアイデアを話し合い、より良い暮らしの実現に向けて取り組んでいる。また、状況の変化に応じて、担当者会議を開催し、本人・ご家族の意向を確認しながら計画の見直しを行っている。	定例会議でカンファレンスを行い、ケアプランに基づく介護の実施状況をチームで適切に行われているか評価しながら計画の見直し、継続の有無を確認している。計画作成者は毎月モニタリング票を作成している。介護の経過記録も各種文書により整備されており、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとに毎日の申し送りにて、職員間で情報を共有し、状況変化への対応やケアの統一に努めている。また、申し送り時に出た意見やアイデアを介護計画の見直しに反映し、より良い介護計画の作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、通院・買物の支援や、地域の夏祭りなどのイベント事への参加など、必要や希望に応じて、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて情報・意見交換を行い、資源の把握や開発に努め、関係機関との協力体制を整えている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、基本的に入居者・ご家族の希望を尊重している。医療機関への受診はご家族・職員が付き添い、状況報告を行っている。また、現在7名の入居者が訪問診療を利用しており、その際も状況報告を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者のかかりつけ医は利用者、家族の希望を尊重している。訪問診療の診察時も職員同席し日頃の経過報告を行い連携に努めている。外来受診の際は家族も診察に同席し、職員付き添いのもと医師と直接対話を行うことで適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に、協力医院の看護師や訪問看護師への状態報告・相談・指示を仰ぎ、日々のケアに取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院される場合、適切な医療に移行できるように、かかりつけ医の情報提供書やグループホームでの日々の生活状況を報告している。入院中や退院前には定期的に訪問、または電話連絡などを行い、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応マニュアルを作成し、職員間で勉強しながら周知徹底を図っている。また、ご家族への終末期に対する説明を行い、書面にて意志確認を行っている。意思確認は年1回を目安に行っている。	終末期対応マニュアルを基に職員一同で学ぶ機会を設けている。事業所は本人、家族の希望があれば可能な限り終末期ケアに対応できるよう努めており、状態に応じて訪問診療、訪問看護との連携も図っている。1年に1回は家族へ終末期、延命治療に関して、文書にて意思確認を行い、意思の把握に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、応急手当の方法や初期対応の訓練を実施している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、災害時の対応の周知徹底を図っている。また、自治会の協力を得て避難場所を確保している。また、防火管理者講習修了者の4人を中心とした消防訓練は年に2回行っている。	事業所は部屋が全て1階にあり避難しやすい環境となっている。災害対策マニュアルが整備されており、事業所から避難場所への移動ルートも地図でわかりやすく作成されている。昼間の避難訓練は実施しており、夜間想定での訓練は本年2月に予定している。今後は地域住民や家族との共同訓練を期待したい。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の気持ちを第一に考え、プライバシーに配慮した言葉かけや本人が判断しやすい言葉かけをするよう心がけている。 また、職員会議にてコミュニケーション方法や認知症の方の心理状況などを勉強し、実践に繋げるよう努めている。	職員は定例の会議や勉強会にて、個人情報保護に関する考え方や、取り組みを繰り返し学び、尊重の保持に配慮したケアの大切さを深く認識できるよう努めている。日々のケアでは言葉使いの配慮や、排泄ケアの場面でも尊厳に配慮したコミュニケーションを行い利用者に不快な思いを与えないよう職員間で話し合いながら改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り入居者の意志を尊重した支援を行い、判断に迷うような場面では、複数の選択肢を提案するなど自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れに沿いつつも、無理強いせず、体調に合わせ本人の意欲を引き出すような支援を行っている。 趣味活動をしたり、テレビを見たりと自由な時間が過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を尊重し、髪型や服装など日頃からおしゃれを楽しんでもらっている。また、自己決定が困難な方に対しては、ご家族の意見を参考に、職員が共に考え、本人の気持ちに添った支援を心がけている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間は、ゆっくりと会話をし、明るく家庭的な雰囲気のもと食事を楽しんでいる。お茶の準備や配膳など食事の準備や後片付けも職員と共に行っている。仲の良い入居者への配膳等を他の入居者に手伝って頂いたり、入居者同士の関係性も良好。	利用者は事業所の庭園で育てた野菜を収穫し、食材として使用したり、調理の下ごしらえや配膳を手伝う機会を作っており、家庭的な雰囲気です食事を楽しんでいる。事業所中央にあるキッチンと食堂は隣接しており、調理をする音や匂いを感じることで食欲を刺激している様子が伺える。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量をチェック表に記録している。10時、3時の水分補給以外でも様子を見ながら水分補給を促し、脱水が起こらないように注意している。夏場には冷蔵庫の中に麦茶を用意し、いつでも飲める状態にしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前には口腔ケアを行っている。自分で出来る方は、見守りにて磨き残しや残渣物が無いかチェックし、困難な方は介助を行い、口腔内の清潔を保っている。協力医療機関であるサンデンタルクリニックに通い義歯の調整をされている入居者もいる。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートにより、一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるように歩行介助やトイレ誘導を支援している。また、夜間帯は、介助を気にしないでいつでも自力にて排泄が行えるように、ポータブルトイレや尿器を使用するなど一人ひとりに合わせた排泄ケアを行っている。	利用者の排泄パターンを個別に把握し、排泄チェックシートを活用しながら出来るだけトイレで排泄できるよう自立支援に取り組んでいる。利用者の状態に応じて夜間帯でもポータブルトイレを活用し、オムツに頼りすぎない自尊心に配慮したケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートにより、毎日一人ひとりの排便チェックを行っている。午前、午後の散歩と10時・3時に体操をお行う際に水分補給をセットで行い、便秘にならないような取り組みに努めている。また、下剤に頼らず乳製品の摂取により腸内環境の改善に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間に入浴時間を設定し、コミュニケーションを取りながらの入浴介助に努めている。入浴を拒む方については、無理強いせず、時間を空けて声かけしたり、職員を交代するなど、柔軟に対応している。	入浴時間や入浴回数も本人の意向を尊重しながら最低週2回以上は入浴実施できるよう取り組んでいる。入浴誘導に際して拒否がみられる時なども、時間を空けて声かけを工夫するなど柔軟に行っている。入浴ケアは1対1のケアであり良好なコミュニケーションの機会と考え、心も体も気持ちよく過ごせるよう心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安で眠れないときや落ち着きがない場合は、声かけにてコミュニケーションを図ったり、温かい飲み物を提供をするなど安心して入眠できるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、副作用については、病院からの内服薬説明書を読んで、理解するよう努めている。内服薬説明書は個人台帳にファイリングし、職員がいつでも確認できるようにしてある。また、服薬変更時はスタッフ是認に申し送りを行い、服薬後の状態変化等に気を付けている。	服薬支援マニュアルにある手順に沿って、服薬支援時には職員2人で声だしチェックを行い誤薬しないよう緊張感をもって支援を行っている。処方薬説明書はカルテに添付しており、変更がある際には記録し、申し送り服薬後の経過観察にも気を配っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に合わせて、自分で出来る事は行っていただき、見守りや時には介助を行うなど、自立支援につとめている。また、以前おこなっていた日課や趣味活動を再開し毎日を楽しみながら過ごして頂けるよう支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏祭りへの参加や、定期的な散歩やドライブなどの外出支援を行っている。時には、玄関先にて日向ぼっこを楽しみながら食事やおやつ時間を過ごすなど、外の空気を吸い、自然を楽しむ配慮を心がけている。	事業所敷地には広い庭園があり、天気の良い日は日課として気軽に庭に出て外気にふれ、花や樹木を見たり、日光浴を楽しむ機会をつくっている。庭園は家族からも好評で、庭で一緒に過ごし、散歩を楽しんでいる。又、毎年皆で初詣に行ったり、恒例の宮古南静園の夏まつりにも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、希望者に対してのみ実施している。領収書の保管や帳簿をつけるなどの管理を行い、ご家族への報告を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常に手紙のやり取りや、電話をかける・受ける、入居者一人ひとりが手掛けた年賀状を送るなどの支援を可能な限り行っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が談笑したり音楽を楽しむ環境や、家庭的な雰囲気作りに努めている。また、ソファや畳間にてくつろいでもらえるよう、いつでも利用出来る状態にしてある。月ごとの行事の飾り付けを共に行い、入居者みずから雰囲気作りに参加している。	利用者がゆっくりと過ごし会話が楽しめる畳間や、広い廊下にはソファが置かれ会話や家族、来客が来ても過ごしやすい空間が整っている。壁に飾ってある作品の多くは利用者と職員で作ったものが飾られており、季節が感じられ、居心地のよい住環境づくりに利用者も参加する工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では他入居者と音楽を聴いたりテレビ鑑賞したり、気の合う入居者同士が気兼ねなく過ごせるよう、家具の配置を配慮している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての入居者が馴染みの環境で過ごせるよう、ご家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を利用し心地よい環境づくりを心がけている。また、使い慣れた家具等の持ち込みが少ない方は、職員、ご家族、入居者で相談し、花を飾ったりポスターを張るなど落ち着ける雰囲気を作るように努めている。	居室は使いなれた家具を持ちこみ、テレビの設置を希望すれば自由にテレビ鑑賞を楽しめるよう、利用者の過ごしやすい空間づくりに努めている。家具等の持ち込みの少ない部屋は、きれいな花のポスターを掲示したり、利用者の誕生日プレゼントで頂いた賞状を壁に掲示するなど利用者のプライベート空間が感じられる居室環境に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は死角が少なくなるよう設計されており、いつでも入居者の状況を把握できるように配慮されている。居室やトイレ等には目印をつけ、見守りや誘導を行いながら安全を確保し、自立した生活が送れるように努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自治会長の運営推進会議への参加が少ない。 また、避難訓練の参加も見られない。	1.運営推進会議への参加率を上げる。 2.地域住民の避難訓練への参加。	1.自治会長は様々な活動をされている為、 参加が難しい場合は他の方に参加してもら う。 2.運営推進会議等の場を利用し、年二回あ る消防訓練への参加を促す。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。